



《津波で打ち上げられたがれきを田んぼから撤去するボランティア。
陸前高田市小友町》



被災地復興へボランティアを派遣

一関市災害ボランティアセンター（市社会福祉協議会）では東日本大震災の被災地支援として、陸前高田市内のがれき撤去や清掃を行うボランティアを募集し、社協のバス（ボランティアバス）で派遣を行っています。（派遣先：小友町、米崎町、広田町、高田町）

これまでに第一弾（5月14～17日）、第二弾（同31日～6月2日）を実施し、延べ120人以上の方々に、自宅敷地、田んぼ、のがれき撤去や清掃、小学校グラウンド整備のボランティア活動にご協力いただきました。参加者は一関市民だけでなく、関東・関西地区からも沢山の方々に参加をいただきました。

陸前高田市はまだまだボランティアを必要としていることから、一関市災害ボランティアセンターでは今後もボランティアバスの派遣を通じ、依頼者に寄り添いながら復興への支援を続けていく予定です。

（詳しくは8ページの一関支部通信）

平成二十二年度 一関市社会福祉協議会 事業報告

二十二年度は、一体感の醸成に努めつつ、基本理念（ビジョン）『支えあい 幸せ 感じる 地域の暮らし』に基づいて、生活に役立つ福祉サービスの提供、住民が安心して暮らすことができる地域社会の構築に努めた。また、事業推進に当たり、基本理念、基本方針に基づき次の項目を実践目標として展開した。

(1) 地域福祉の推進

市民の社会参加の促進とボランティア意識の醸成をはかりながら、住民相互で支え合う互助・共助の精神を高め、地域を支える仕組みの構築に努めた。

また、社協の事務事業の円滑な推進を図るため、福祉委員である行政区長、民生児童委員等の協力を得て、社協会費及び募金、福祉事業の調査、連絡調整などにより社協業務の推進と地域福祉の増進を図った。

(2) 子育て支援

子育て環境が徐々に変化しつつあることを踏まえ、子育てサロン事業に取り組むとともに、ファミリーサポートセンター事業等の利用促進を図り、子育て支援ネットワークの拡大に努めた。

(3) 相談、支援体制

また、判断能力が不十分な方への福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理などをを行う、日常生活自立支援事業や、障害者や家族に対し、地域における生活を支援するための障害者支援プログラザの活用を促進する等、相談支援機能の充実に努めた。

(4) 介護保険事業及び障害者の自立支援
介護保険事業及び自立支援事業の運営に当たって、介護職員等の研修を行いサービスの質の向上と収支のバランスを堅持し、

地域福祉事業

(1) 小地域福祉推進事業

地域の人々が安心して豊かな生活ができるような地域福祉を期するため、地区福祉推進協議会、自立会の自主的な福祉活動を支援するため、活動助成金を交付した。

・交付金額 二五地区 七四行政区
六、〇九一、八八〇円

(2) ふれあいサロン事業

小地域を単位として、高齢者等の生きがい作りや、寝つきり・閉じこもり予防

活動を目的に定期的に開催し、地域住民が主体となり実施したサロンに対し、活動助成した。
・助成サロン数 三一五ヶ所
（実施回数 三、三四九回）

(3) 子育てサロン事業

地域住民やボランティアが主体となり、孤立しながら家庭の育児不安の解消に資するとともに、当事者同士がふれあい仲間づくりを行う活動に対し活動助成した。
・助成サロン数 一二ヶ所
(参加者数 一五七人)

(4) 子育て支援事業（受託事業）

一関市ファミリーサポートセンターにおいて、育児の援助を行う方（協力会員）と、育児の援助を受ける方（依頼会員）、双方を兼ねる方（両方会員）を組織化し、育児に関する相互援助活動の支援を行った。また、子育て支援の相談・情報提供、保育ボランティアの派遣、子育て支援の講師として職員を派遣した。

(5) 人口減少や高齢化に加え、混迷する時代に対応するため、情報提供の場としての社協だよりの充実と学習の機会として五回連続講座を開催した。

(6) 東日本大震災に対応して、要援護者の安否確認、避難者への支援、救援物資の受付・搬送及び被災地社協へ職員の派遣を行った。

(7) 相談、支援体制
地域福祉に関する情報の提供と学習機会を設定するため、一関公民館、いちのせき市民活動センターと共に、一関市総合福祉センターを会場に五回連続講座を開催した。

(8) 社協だより

・会場 千厩農村勤労福祉センター
・来場者数 七五〇人（関係者含む）
・会場 千厩農村勤労福祉センター
・来場者数 七五〇人（関係者含む）

・内 容 ふれあいサロン活動展（展示、ステージ発表）、町内福祉施設作品展、シルバー作品展、炊出し訓練、農産物販売、ハートフルショップ、キラリン一座公演、むし歯相談他

(7) 第五回一関市社会福祉大会

平成二十二年七月二十八日(水)午後一時三十分 大東コミュニティーセンターにおいて、福祉関係者など四二〇人が参加して行われた。

(8) ホームページの開設

一関市社会福祉協議会ホームページを開設し活動紹介を行った。
・会場 千厩農村勤労福祉センター
・来場者数 七五〇人（関係者含む）

(9) ボランティアセンター事業

①ボランティアセンター運営委員会の開催
・平成二十二年六月二十九日(火)
運営委員長、副委員長の互選について

(10) ボランティアセンター事業

①ボランティアセンター運営委員会の開催
・平成二十三年二月十六日(水)
運営委員長、副委員長の互選について

・平成二十二年度事業について
登録団体の確認について

・平成二十二年度事業について
登録団体の確認について

(5) 講演会の開催

地域福祉に関する情報の提供と学習機会を設定するため、一関公民館、いちのせき市民活動センターと共に、一関市総合福祉センターを会場に五回連続講座を開催した。

(6) 社協ふくし祭り「ゆいつこ広場」の開催

市民と福祉関係者等とのふれあいの場を設け、互いの理解を深め、誰もが安心に暮らせるまちづくりに努めるため、ボランティア活動の啓発をすすめながら、福祉まつりを開催した。

・開催日 平成二十二年十月十七日(日)
テーマ 「人と心を地域で支えるまちづくり」

・内 容 ふれあいサロン活動展（展示、ステージ発表）、町内福祉施設作品展、シルバー作品展、炊出し訓練、農産物販売、ハートフルショップ、キラリン一座公演、むし歯相談他

(3) ボランティア協力校の指定

一関市内の小・中・高等学校の児童・生

徒を対象として、ボランティアへの理解と関心を高め、ボランティア活動、社会連帯の精神を養うとともに、児童・生徒を通じて家庭および地域社会への啓発を図ることを目的に、ボランティア協力校一七校を指定した。

④ボランティア講座の開催

I ボランティアスクール（中高生）の開催（二十年度より統一事業）
夏休み期間を利用し、中学生及び高校生が様々なふれあい体験を通して、ボランティア活動の理解とボランティア精神を醸成することをねらいに実施した。

・参加者数 一三人
II 高校生保育ボランティア体験の開催子育て支援活動への参加を通して、ボランティア活動への関心を高めるとともに、いのちや家庭の大切さについて理解を深めることを目的として開催した。

・開催回数 二回

・参加者数 一〇人

(11) 心配ごと相談所

日常生活の心配ごと、悩みごと等を気軽に相談できるよう相談員を委嘱し相談、援助に努めた。また、花泉、大東、千厩の各支部を会場に移動相談所を開設した。

心配ごと相談の推移（相談時間 午前十時～午後三時）

・開設日数 四十七日

・移動相談日数 三日

・相談延人数 五七人

・相談延件数 二四三件

(12) 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯や障害のある方、介護を要する高齢者等が同居する世帯に対して、経済的自立と生活意欲の助長、社会参加の促進を図るため、低い金利（一部無利子）で、岩手県社協から貸付を行った。

・貸付け件数 八二件
・貸付金額 四四、〇七三、三〇〇円
(13) たすけあい金庫貸付事業

失業や疾病等による一時的収入減等により、生活維持が困難になつた世帯に対し、一時資金として無利子で貸し付けを行つた。（限度額五〇、〇〇〇円）

(14) 日常生活自立支援事業（受託事業）
福祉サービスを自ら選択したり、福祉サービス提供事業者と契約することの判断能力が不十分な方に対し、利用手続きの援助や代行、公共料金の支払いなど、本人の日常生活の自立を支援した。

本協議会は西磐井及び東磐井の広域を担う「基幹社協」と位置付けられている。このため、専門員一人が配置され、生活支援員として一関支四人、六支部・平泉町・藤沢町に各二人、合計二〇人を委嘱し、利用者の支援に努めた。

・相談援助延件数 八〇九件
・利用援助契約者数 五三人

(15) 敬老会（受託事業）
多年にわたり社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝う敬老会を敬老の日の前後に地区ごとに当祝者八十歳以上、一三、二六〇人を招待し開催した。

・開催日 平成二十二年八月二十八日／九月四・十一・十八・二十五日／十月九・十六日（全七回）

・場所 一関市総合福祉センター

・参加者 十六歳以上で手話に関心のある

一関市・平泉町・藤沢町在住の方 二八人

・心配ごと相談の推移（相談時間 午前十時～午後三時）

・開設日数 四十七日

・移動相談日数 三日

・相談延人数 五七人

・相談延件数 二四三件

(16) 在宅介護者リフレッシュ事業

在宅で寝たきり高齢者や重度障がい者の介護をされている方々の交流と、日頃の介護疲れを癒し、心身ともにリフレッシュを図るために開催した。

・泊二日 中山平温泉 仙庄館 一九人

・日帰り 嵩美温泉 いくくし園 五六人

・赤い羽根共同募金運動は、十月一日から目標額を達成するため、支部ごとに運動を

・貸付け件数 八二件
・貸付金額 四四、〇七三、三〇〇円
(13) たすけあい金庫貸付事業

失業や疾病等による一時的収入減等により、生活維持が困難になつた世帯に対し、一時資金として無利子で貸し付けを行つた。（限度額五〇、〇〇〇円）

(14) 日常生活自立支援事業（受託事業）
福祉サービスを自ら選択したり、福祉サービス提供事業者と契約することの判断能力が不十分な方に対し、利用手続きの援助や代行、公共料金の支払いなど、本人の日常生活の自立を支援した。

本協議会は西磐井及び東磐井の広域を担う「基幹社協」と位置付けられている。このため、専門員一人が配置され、生活支援員として一関支四人、六支部・平泉町・藤沢町に各二人、合計二〇人を委嘱し、利用者の支援に努めた。

・相談件数 一、四二二件
・手話講習会の開催（受託事業）

手話を通じ、日常生活上のコミュニケーションを図り、聴覚障害者の支援や情報提供を行うことにより、障害者の理解と社会参加に役立てるため、開催した。

・開催日 平成二十二年八月二十八日／九月四・十一・十八・二十五日／十月九・十六日（全七回）

・場所 一関市総合福祉センター

・参加者 十六歳以上で手話に関心のある

一関市・平泉町・藤沢町在住の方 二八人

・心配ごと相談の推移（相談時間 午前十時～午後三時）

・開設日数 四十七日

・移動相談日数 三日

・相談延人数 五七人

・相談延件数 二四三件

(16) 在宅介護者リフレッシュ事業

在宅で寝たきり高齢者や重度障がい者の介護をされている方々の交流と、日頃の介護疲れを癒し、心身ともにリフレッシュを図るために開催した。

・泊二日 中山平温泉 仙庄館 一九人

・日帰り 嵩美温泉 いくくし園 五六人

・赤い羽根共同募金運動は、十月一日から目標額を達成するため、支部ごとに運動を

・延参加者数 一〇〇回
・延参加者数 五〇一人
・貸付金額 四四、〇七三、三〇〇円
(13) たすけあい金庫貸付事業

失業や疾病等による一時的収入減等により、生活維持が困難になつた世帯に対し、一時資金として無利子で貸し付けを行つた。（限度額五〇、〇〇〇円）

(14) 日常生活自立支援事業（受託事業）
福祉サービスを自ら選択したり、福祉サービス提供事業者と契約することの判断能力が不十分な方に対し、利用手続きの援助や代行、公共料金の支払いなど、本人の日常生活の自立を支援した。

本協議会は西磐井及び東磐井の広域を担う「基幹社協」と位置付けられている。このため、専門員一人が配置され、生活支援員として一関支四人、六支部・平泉町・藤沢町に各二人、合計二〇人を委嘱し、利用者の支援に努めた。

・相談件数 一、四二二件
・手話講習会の開催（受託事業）

手話を通じ、日常生活上のコミュニケーションを図り、聴覚障害者の支援や情報提供を行うことにより、障害者の理解と社会参加に役立てるため、開催した。

・開催日 平成二十二年八月二十八日／九月四・十一・十八・二十五日／十月九・十六日（全七回）

・場所 一関市総合福祉センター

・参加者 十六歳以上で手話に関心のある

一関市・平泉町・藤沢町在住の方 二八人

・心配ごと相談の推移（相談時間 午前十時～午後三時）

・開設日数 四十七日

・移動相談日数 三日

・相談延人数 五七人

・相談延件数 二四三件

(16) 在宅介護者リフレッシュ事業

在宅で寝たきり高齢者や重度障がい者の介護をされている方々の交流と、日頃の介護疲れを癒し、心身ともにリフレッシュを図るために開催した。

・泊二日 中山平温泉 仙庄館 一九人

・日帰り 嵩美温泉 いくくし園 五六人

・赤い羽根共同募金運動は、十月一日から目標額を達成するため、支部ごとに運動を

・延参加者数 一〇〇回
・延参加者数 五〇一人
・貸付金額 四四、〇七三、三〇〇円
(13) たすけあい金庫貸付事業

失業や疾病等による一時的収入減等により、生活維持が困難になつた世帯に対し、一時資金として無利子で貸し付けを行つた。（限度額五〇、〇〇〇円）

(14) 日常生活自立支援事業（受託事業）
福祉サービスを自ら選択したり、福祉サービス提供事業者と契約することの判断能力が不十分な方に対し、利用手続きの援助や代行、公共料金の支払いなど、本人の日常生活の自立を支援した。

本協議会は西磐井及び東磐井の広域を担う「基幹社協」と位置付けられている。このため、専門員一人が配置され、生活支援員として一関支四人、六支部・平泉町・藤沢町に各二人、合計二〇人を委嘱し、利用者の支援に努めた。

・相談件数 一、四二二件
・手話講習会の開催（受託事業）

手話を通じ、日常生活上のコミュニケーションを図り、聴覚障害者の支援や情報提供を行うことにより、障害者の理解と社会参加に役立てるため、開催した。

・開催日 平成二十二年八月二十八日／九月四・十一・十八・二十五日／十月九・十六日（全七回）

・場所 一関市総合福祉センター

・参加者 十六歳以上で手話に関心のある

一関市・平泉町・藤沢町在住の方 二八人

・心配ごと相談の推移（相談時間 午前十時～午後三時）

・開設日数 四十七日

・移動相談日数 三日

・相談延人数 五七人

・相談延件数 二四三件

(16) 在宅介護者リフレッシュ事業

在宅で寝たきり高齢者や重度障がい者の介護をされている方々の交流と、日頃の介護疲れを癒し、心身ともにリフレッシュを図るために開催した。

・泊二日 中山平温泉 仙庄館 一九人

・日帰り 嵩美温泉 いくくし園 五六人

・赤い羽根共同募金運動は、十月一日から目標額を達成するため、支部ごとに運動を

・延参加者数 一〇〇回
・延参加者数 五〇一人
・貸付金額 四四、〇七三、三〇〇円
(13) たすけあい金庫貸付事業

失業や疾病等による一時的収入減等により、生活維持が困難になつた世帯に対し、一時資金として無利子で貸し付けを行つた。（限度額五〇、〇〇〇円）

(14) 日常生活自立支援事業（受託事業）
福祉サービスを自ら選択したり、福祉サービス提供事業者と契約することの判断能力が不十分な方に対し、利用手続きの援助や代行、公共料金の支払いなど、本人の日常生活の自立を支援した。

本協議会は西磐井及び東磐井の広域を担う「基幹社協」と位置付けられている。このため、専門員一人が配置され、生活支援員として一関支四人、六支部・平泉町・藤沢町に各二人、合計二〇人を委嘱し、利用者の支援に努めた。

・相談件数 一、四二二件
・手話講習会の開催（受託事業）

手話を通じ、日常生活上のコミュニケーションを図り、聴覚障害者の支援や情報提供を行うことにより、障害者の理解と社会参加に役立てるため、開催した。

・開催日 平成二十二年八月二十八日／九月四・十一・十八・二十五日／十月九・十六日（全七回）

・場所 一関市総合福祉センター

・参加者 十六歳以上で手話に関心のある

一関市・平泉町・藤沢町在住の方 二八人

・心配ごと相談の推移（相談時間 午前十時～午後三時）

・開設日数 四十七日

・移動相談日数 三日

・相談延人数 五七人

・相談延件数 二四三件

(16) 在宅介護者リフレッシュ事業

在宅で寝たきり高齢者や重度障がい者の介護をされている方々の交流と、日頃の介護疲れを癒し、心身ともにリフレッシュを図るために開催した。

・泊二日 中山平温泉 仙庄館 一九人

・日帰り 嵩美温泉 いくくし園 五六人

・赤い羽根共同募金運動は、十月一日から目標額を達成するため、支部ごとに運動を

・延参加者数 一〇〇回
・延参加者数 五〇一人
・貸付金額 四四、〇七三、三〇〇円
(13) たすけあい金庫貸付事業

失業や疾病等による一時的収入減等により、生活維持が困難になつた世帯に対し、一時資金として無利子で貸し付けを行つた。（限度額五〇、〇〇〇円）

(14) 日常生活自立支援事業（受託事業）
福祉サービスを自ら選択したり、福祉サービス提供事業者と契約することの判断能力が不十分な方に対し、利用手続きの援助や代行、公共料金の支払いなど、本人の日常生活の自立を支援した。

本協議会は西磐井及び東磐井の広域を担う「基幹社協」と位置付けられている。このため、専門員一人が配置され、生活支援員として一関支四人、六支部・平泉町・藤沢町に各二人、合計二〇人を委嘱し、利用者の支援に努めた。

・相談件数 一、四二二件
・手話講習会の開催（受託事業）

手話を通じ、日常生活上のコミュニケーションを図り、聴覚障害者の支援や情報提供を行うことにより、障害者の理解と社会参加に役立てるため、開催した。

・開催日 平成二十二年八月二十八日／九月四・十一・十八・二十五日／十月九・十六日（全七回）

・場所 一関市総合福祉センター

・参加者 十六歳以上で手話に関心のある

一関市・平泉町・藤沢町在住の方 二八人

・心配ごと相談の推移（相談時間 午前十時～午後三時）

・開設日数 四十七日

・移動相談日数 三日

・相談延人数 五七人

・相談延件数 二四三件

(16) 在宅介護者リフレッシュ事業

在宅で寝たきり高齢者や重度障がい者の介護をされている方々の交流と、日頃の介護疲れを癒し、心身ともにリフレッシュを図るために開催した。

・泊二日 中山平温泉 仙庄館 一九人

・日帰り 嵩美温泉 いくくし園 五六人

・赤い羽根共同募金運動は、十月一日から目標額を達成するため、支部ごとに運動を

・延参加者数 一〇〇回
・延参加者数 五〇一人
・貸付金額 四四、〇七三、三〇〇円
(13) たすけあい金庫貸付事業

失業や疾病等による一時的収入減等により、生活維持が困難になつた世帯に対し、一時資金として無利子で貸し付けを行つた。（限度額五〇、〇〇〇円）

(14) 日常生活自立支援事業（受託事業）
福祉サービスを自ら選択したり、福祉サービス提供事業者と契約することの判断能力が不十分な方に対し、利用手続きの援助や代行、公共料金の支払いなど、本人の日常生活の自立を支援した。

本協議会は西磐井及び東磐井の広域を担う「基幹社協」と位置付けられている。このため、専門員一人が配置され、生活支援員として一関支四人、六支部・平泉町・藤沢町に各二人、合計二〇人を委嘱し、利用者の支援に努めた。

・相談件数 一、四二二件
・手話講習会の開催（受託事業）

手話を通じ、日常生活上のコミュニケーションを図り、聴覚障害者の支援や情報提供を行うことにより、障害者の理解と社会参加に役立てるため、開催した。

・開催日 平成二十二年八月二十八日／九月四・十一・十八・二十五日／十月九・十六日（全七回）

・場所 一関市総合福祉センター

・参加者 十六歳以上で手話に関心のある

一関市・平泉町・藤沢町在住の方 二八人

・心配ごと相談の推移（相談時間 午前十時～午後三時）

・開設日数 四十七日

・移動相談日数 三日

・相談延人数 五七人

・相談延件数 二四三件

(16) 在宅介護者リフレッシュ事業

在宅で寝たきり高齢者や重度障がい者の介護をされている方々の交流と、日頃の介護疲れを癒し、心身ともにリフレッシュを図るために開催した。

・泊二日 中山平温泉 仙庄館 一九人

・日帰り 嵩美温泉 いくくし園 五六人

・赤い羽根共同募金運動は、十月一日から目標額を達成するため、支部ごとに運動を

・延参加者数 一〇〇回
・延参加者数 五〇一人
・貸付金額 四四、〇七三、三〇〇円
(13) たすけあい金庫貸付事業

失業や疾病等による一時的収入減等により、生活維持が困難になつた世帯に対し、一時資金として無利子で貸し付けを行つた。（限度額五〇、〇〇〇円）

(14) 日常生活自立支援事業（受託事業）
福祉サービスを自ら選択したり、福祉サービス提供事業者と契約することの判断能力が不十分な方に対し、利用手続きの援助や代行、公共料金の支払いなど、本人の日常生活の自立を支援した。

本協議会は西磐井及び東磐井の広域を担う「基幹社協」と位置付けられている。このため、専門員一人が配置され、生活支援員として一関支四人、六支部・平泉町・藤沢町に各二人、合計二〇人を委嘱し、利用者の支援に努めた。

・相談件数 一、四二二件
・手話講習会の開催（受託事業）

手話を通じ、日常生活上のコミュニケーションを図り、聴覚障害者の支援や情報提供を行うことにより、障害者の理解と社会参加に役立てるため、開催した。

・開催日 平成二十二年八月二十八日／九月四・十一・十八・二十五日／

展開した結果、近年の経済的不況が続き厳しい社会情勢を反映した結果となつた。

この共同募金運動による配分金は、岩手県共同募金会を通じて県内の民間福祉施設、福祉団体、社会福祉協議会等の地域福祉事業の貴重な財源となつていています。

・実績額

一八、〇六七、七七三円

② 歳末たすけあい募金結果

「みんなでささえあつあつたかい地域づくり」をスローガンに、募金運動を展開し、

戸別、職域、学校募金などが寄せられ、生活困窮世帯、ひとり暮らし高齢者、母子父子世帯、寝たきり高齢者、認知症高齢者、障害児（者）を重点に、一関市社会福祉協議会が民生児童委員の協力により配分したほか、施設にも配分した。

・実績額 二一、五八八、二〇五円
・配分実績 三、五一八件
一九、三三六、四九〇円

平成二十一年度実績額と配分額の差額二、二五一、七一五円は、いったん岩手県共同募金会に送付し、次年度の一関市社会福祉協議会の地域福祉事業 在宅福祉サービス等の事業費として配分を受けるものです。

在宅福祉事業

(1) 地域包括支援センター事業（高齢者総合相談センター・しぶみ）（受託事業）

高齢者がいつまでも住み慣れた地域で安心して生活していくよう、介護・福祉・保健・医療などさまざまな面から総合的に支えるために、大東、東山地域を担当する地域包括支援センター（平成二十一年一月から開設）を一関地区広域行政組合から委託を受け運営した。

箇角人数	大東	東山	合計（人）
三千二年	五三五	二六七	七〇二
四四年	二五六	七〇二	五九九
五五年	二五五	七〇二	五九九

(4) 訪問入浴センター（介護保険事業）

在宅で自力入浴が困難な方に、特殊浴槽を搭載した車で訪問し、入浴介護を行つた。

箇角人数	花泉	大東	東山	合計（人）
三千二年	一四六	五八	七一	二〇九
四四年	一八六	六〇	七六	三〇三
五五年	一四七	二八	三三九	五四五

(3) 介護支援事業所（障害者自立支援事業）

障害者の方に対し、訪問介護員が家庭を行つた。

箇角人数	花泉	大東	東山	合計（人）
三千二年	一五六八	七九三	四九一	三三四五
四四年	二七	五〇	〇	一二一
五五年	一五六九	七七九	四三四	三二二六

箇角人数	花泉	大東	東山	合計（人）
三千二年	一五六八	七九三	四九一	三三四五
四四年	二七	五〇	〇	一二一
五五年	一五六九	七七九	四三四	三二二六

箇角人数	花泉	大東	東山	合計（人）
三千二年	一五六八	七九三	四九一	三三四五
四四年	二七	五〇	〇	一二一
五五年	一五六九	七七九	四三四	三二二六

(6) ケアプランセンター（介護保険事業）

依頼を受けてケアマネージャーが利用者宅を訪問し、ケアプランの作成や介護に関する相談等の支援を行つた。

箇角人数	花泉	大東	東山	合計（人）
三千二年	一五六八	七九三	四九一	三三四五
四四年	二七	五〇	〇	一二一
五五年	一五六九	七七九	四三四	三二二六

(7) 在宅介護支援センター（受託事業）

介護予防・生活支援等の総合相談、高齢者の実態把握、介護保険対象外の方への支援を行つた。

箇角人数	花泉	大東	東山	合計（人）
三千二年	一五六八	七九三	四九一	三三四五
四四年	二七	五〇	〇	一二一
五五年	一五六九	七七九	四三四	三二二六

(8) 生活支援福祉サービス事業（受託事業）

六十五歳以上の高齢者や介護認定非該当者等を対象に生きがい支援として、次のサービスを提供した。サービス派遣事業

* 生活管理指導員派遣事業 訪問介護員が訪問し、家事援助等のサービスを提供した。

年度	利用人数	延利用率回数
三千二年	一	一
四四年	五一	四七
五五年	五七	四七

(11) 生活介護事業（身体障害者等に対する生活介護事業（デイサービス事業）

在宅障害者に対し、昼間、入浴、排泄、食事の介助を行うとともに、創作的活動等の機会を提供した。

箇角人数	大東支部	東山支部	合計（人）
三千二年	二七	二三	五〇
四四年	二七	二三	五〇
五五年	二七	二三	五〇

(10) 障害者地域生活支援事業（補助事業）

在宅障害者の健康保持・生活支援を目的に、訪問入浴サービスを提供した。

年度	実施回数	延利用率回数
三千二年	六九	七六九
四四年	二二八	三五二
五五年	二二八	三五二

(9) 高齢者健康づくり教室事業（ふれあい入浴サービス）

日帰り施設介護サービス。自宅からの迎・入浴・昼食・余暇活動等のサービスを行い、一日を楽しく過ごせる通所支援を行つた。

箇角人数	大東支部	東山支部	室根支部	合計（人）
三千二年	三〇七	三一七	三	四九
四四年	一五九	四七九	四六六	一四九
五五年	二五六	二五六	二五六	一四九

箇角回数	花泉支部	大東支部	東山支部	室根支部	合計（回）
○	二五三	○	五	三六	三六
一	二五九	一五九	四七九	四六六	一四九
二	二五九	二五九	二五九	二五九	一四九
三	二五九	二五九	二五九	二五九	一四九

平成22年度 決算の状況

一般会計

資金収支計算書 (自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日

[単位:円]

勘定科目		予算額	決算額	差異
経常活動による収支	会費収入	32,187,000	32,009,100	-177,900
	寄附金収入	11,684,000	14,956,074	3,272,074
	経常経費補助金収入	100,617,000	100,565,431	-51,569
	助成金収入	322,000	295,450	-26,550
	受託金収入	85,541,000	81,006,927	-4,534,073
	事業収入	13,119,000	12,274,785	-844,215
	貸付事業等収入	3,944,000	2,630,000	-1,314,000
	共同募金配分金収入	29,663,000	29,381,922	-281,078
	介護保険収入	345,986,000	343,089,004	-2,896,996
	自立支援費等収入	24,912,000	24,014,650	-897,350
	補助事業等収入	10,342,000	10,119,347	-222,653
	雑収入	324,000	435,634	111,634
	受取利息配当金収入	1,925,000	1,801,943	-123,057
	会計単位間繰入金収入	3,791,000	3,791,000	0
	経理区分間繰入金収入	30,532,000	26,271,434	-4,260,566
	経常収入計(1)	694,889,000	682,642,701	-12,246,299
	人件費支出	407,703,000	397,272,972	10,430,028
経常活動による支出	事務費支出	51,553,000	42,673,238	8,879,762
	事業費支出	142,589,000	123,412,503	19,176,497
	貸付事業等支出	2,750,000	1,558,000	1,192,000
	助成金支出	34,015,000	33,152,539	862,461
	会計単位間繰入金支出	48,665,000	46,985,291	1,679,709
	経理区分間繰入金支出	30,532,000	26,271,434	4,260,566
	経常支出計(2)	717,807,000	671,325,977	46,481,023
	経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-22,918,000	11,316,724	34,234,724
施設整備等による収支	施設整備等収入計(4)	0	0	0
	固定資産取得支出及び繰入支出	370,000	367,500	2,500
	施設整備等支出計(5)	370,000	367,500	2,500
財務活動による収支	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-370,000	-367,500	2,500
	その他の収入	951,000	951,950	950
	財務収入計(7)	951,000	951,950	950
財務活動による支出	積立預金積立支出	10,000,000	10,000,000	0
	その他の支出	5,366,000	5,203,600	162,400
	財務支出計(8)	15,366,000	15,203,600	162,400
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		-14,415,000	-14,251,650	163,350
予備費(10)		2,050,000		2,050,000
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-39,753,000	-3,302,426	36,450,574
前期末支払資金残高(12)		279,571,000	279,570,125	-875
当期末支払資金残高(11)+(12)		239,818,000	276,267,699	36,449,699

貸借対照表 平成23年3月31日現在

[単位:円]

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	369,832,518	321,642,537	48,189,981	流動負債	27,460,715	24,780,395	2,680,320
現金	530,000	530,000	0	未払金	21,275,518	23,428,252	△2,152,734
預貯金	262,291,825	209,581,756	52,710,069	預り金	2,122,092	186,407	1,935,685
未収金	102,618,821	109,909,345	△7,290,524	前受金	43,000	5,200	37,800
前払金	388,017	460,900	△72,883	会計単位外借入金	4,003,855	1,160,536	2,843,319
会計単位外貸付金	4,003,855	1,160,536	2,843,319	仮受金	16,250	0	16,250
固定資産	980,753,430	989,430,011	△8,676,581	固定負債	102,435,665	97,073,835	5,361,830
基本財産	212,833,885	223,464,254	△10,630,369	退職給与引当金	102,435,665	97,073,835	5,361,830
基本財産特定預金	7,000,000	7,000,000	0	負債の部合計	129,896,380	121,854,230	8,042,150
建物	199,245,260	205,011,200	△5,765,940	純資産の部			
建物付属設備	6,588,625	11,453,054	△4,864,429	基本金	7,000,000	7,000,000	0
その他の固定資産	767,919,545	765,965,757	1,953,788	基本金	7,000,000	7,000,000	0
建物	1,644,723	1,919,293	△274,570	基金	300,000,000	300,000,000	0
構築物	1,346,085	1,455,832	△109,747	福祉基金	300,000,000	300,000,000	0
車輌運搬具	8,625,976	13,484,395	△4,858,419	国庫補助金等特別積立金	149,097,827	154,137,590	4,960,237
器具及び備品	12,969,311	17,138,740	△4,169,429	その他の積立金	328,830,878	318,830,878	10,000,000
ソフトウェア	990,407	3,914,284	△2,923,877	財政調整積立金	107,515,574	107,515,574	0
貸付事業等貸付金	11,076,500	12,148,500	△1,072,000	介護保険財政積立金	221,315,304	211,315,304	10,000,000
退職共済預け金	64,210,295	58,848,465	5,361,830	次期繰越活動収支差額	435,760,863	409,249,850	26,511,013
福祉基金積立預金	300,000,000	300,000,000	0	次期繰越活動収支差額	435,760,863	409,249,850	26,511,013
財政調整積立預金	107,515,574	107,515,574	0	(うち当期活動収支差額)	(36,511,043)	(60,397,509)	(△23,886,466)
介護保険財政積立預金	221,315,304	211,315,304	10,000,000	純資産の部合計	1,220,689,568	1,189,218,318	31,471,250
退職金積立預金	38,225,370	38,225,370	0	負債及び純資産の部合計	1,350,585,948	1,311,072,548	39,513,400
資産の部合計	1,350,585,948	1,311,072,548	39,513,400				

脚注: 減価償却費の累計額 492,440,094円

公益事業特別会計

資金収支計算書 (自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日

[単位:円]

勘定科目		予算額	決算額	差異
経常活動による収支	助成金収入	144,000	114,910	-29,090
	受託金収入	19,170,000	19,170,000	0
	介護保険収入	130,607,000	132,134,361	1,527,361
	補助事業等収入	4,956,000	4,725,000	-231,000
	雑収入	0	57,000	57,000
	受取利息配当金収入	9,000	16,515	7,515
	会計単位間繰入金収入	48,665,000	46,985,291	-1,679,709
経常収入計(1)		203,551,000	203,203,077	-347,923
経常活動による支出	人件費支出	121,234,000	119,266,886	1,967,114
	事務費支出	3,947,000	2,924,503	1,022,497
	事業費支出	33,456,000	30,334,144	3,121,856
	会計単位間繰入金支出	3,791,000	3,791,000	0
	経常支出計(2)	162,428,000	156,316,533	6,111,467
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		41,123,000	46,886,544	5,763,544
に施設整備する収支等	施設整備等収入計(4)	0	0	0
	固定資産取得支出及び繰入支出	609,000	607,810	1,190
	施設整備等支出計(5)	609,000	607,810	1,190
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-609,000	-607,810	1,190
財務活動による収支等	財務収入計(7)	0	0	0
	その他の支出	1,833,000	1,828,825	4,175
	財務支出計(8)	1,833,000	1,828,825	4,175
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		-1,833,000	-1,828,825	4,175
予備費(10)		738,000		738,000
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		37,943,000	44,449,909	6,506,909
前期末支払資金残高(12)		1,258,000	1,257,960	-40
当期末支払資金残高(11)+(12)		39,201,000	45,707,869	6,506,869

貸借対照表 平成23年3月31日現在

[単位:円]

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産				流動負債	7,679,829	2,541,483	5,138,346
現金	0	0	0	未払金	3,649,974	1,380,947	2,269,027
預貯金	31,107,888	64,643	31,043,245	預り金	0	0	0
未収金	22,241,343	3,734,800	18,506,543	会計単位外借入金	4,003,855	1,160,536	2,843,319
前払金	38,467	0	38,467	経理区分勘定	26,000	0	26,000
				固定負債	14,503,296	0	14,503,296
				経理区分勘定	14,503,296	0	14,503,296
固定資産	22,734,413	141,357	22,593,056				
その他の固定資産	22,734,413	141,357	22,593,056	負債の部合計	22,183,125	2,541,483	19,641,642
車両運搬具	189,795	0	189,795				
器具及び備品	2,310,251	141,357	2,168,894	純資産の部			
ソフトウェア	234,367	0	234,367				
介護保険財政積立預金	10,000,000	0	10,000,000	その他の積立金	10,000,000	0	10,000,000
経理区分勘定	10,000,000	0	10,000,000	介護保険財政積立金	10,000,000	0	10,000,000
				次期繰越活動収支差額	43,938,986	1,399,317	42,539,669
				次期繰越活動収支差額	43,938,986	1,399,317	42,539,669
				(うち当期活動収支差額)	(42,539,669)	(1,399,317)	(41,140,352)
				純資産の部合計	53,938,986	1,399,317	52,539,669
資産の部合計	76,122,111	3,940,800	72,181,311	負債及び純資産の部合計	76,122,111	3,940,800	72,181,311

脚注: 減価償却費の累計額 28,078,268円

: 経理区分勘定は、一般会計から公益事業特別会計への移管分

千厩ワークプラザ特別会計

資金収支計算書 (自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日

[単位:円]

勘定科目		予算額	決算額	差異
就労支援事業による収支	就労支援事業収入	2,772,000	2,715,553	-56,447
	就労支援事業収入計(1)	2,772,000	2,715,553	-56,447
	就労支援事業支出	2,772,000	2,715,553	56,447
	就労支援事業支出計(2)	2,772,000	2,715,553	56,447
就労支援事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		0	0	0
福祉事業活動による収支	運営費収入	2,760,000	2,186,156	-573,844
	自立支援費収入	19,242,000	18,970,770	-271,230
	利用者負担金収入	540,000	72,430	-467,570
	経常経費補助金収入	510,000	510,021	21
	雑収入	1,000	13,330	12,330
	受取利息配当金収入	1,000	2,259	1,259
	福祉事業収入計(4)	23,054,000	21,754,966	-1,299,034
支給等による支支	人件費支出	10,492,000	10,082,305	409,695
	事務費支出	3,098,000	2,197,270	900,730
	事業費支出	6,234,000	4,941,108	1,292,892
	福祉事業支出計(5)	19,824,000	17,220,683	2,603,317
	福祉事業活動資金収支差額(6)=(4)-(5)	3,230,000	4,534,283	1,304,283
施設整備等による支支	施設整備等補助金収入	1,881,000	1,763,750	-117,250
	施設整備等収入計(7)	1,881,000	1,763,750	-117,250
	固定資産取得支出	1,769,000	1,768,080	920
	施設整備等支出計(8)	1,769,000	1,768,080	920
	施設整備等資金収支差額(9)=(7)-(8)	112,000	-4,330	-116,330
財務活動による支支	財務収入計(10)	0	0	0
	その他の支出	168,000	167,775	225
	財務支出計(11)	168,000	167,775	225
財務活動資金収支差額(12)=(10)-(11)		-168,000	-167,775	225
予備費(13)		0		0
当期資金収支差額合計(14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)		3,174,000	4,362,178	1,188,178
前期末支払資金残高(15)		16,034,000	16,034,057	57
当期末支払資金残高(14)+(15)		19,208,000	20,396,235	1,188,235

貸借対照表 平成23年3月31日現在

[単位:円]

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	21,569,630	17,034,016	4,535,614	流動負債	1,173,395	999,959	173,436
現金	30,000	30,000	0	未払金	1,173,395	999,959	173,436
預貯金	16,247,104	11,573,309	4,673,795	預り金	0	0	0
未収金	5,292,526	5,430,707	△138,181	固定負債	0	0	0
固定資産	2,035,121	612,257	1,422,864	負債の部合計	1,173,395	999,959	173,436
その他の固定資産	2,035,121	612,257	1,422,864	純資産の部			
車輌運搬具	784,754	56,073	728,681	国庫補助金等特別積立金	1,655,035	421,667	1,233,368
器具及び備品	1,250,367	556,184	694,183	次期繰越活動収支差額	20,776,321	16,224,647	4,551,674
資産の部合計	23,604,751	17,646,273	5,958,478	次期繰越活動収支差額 (うち当期活動収支差額)	(4,551,674)	(5,952,856)	(△1,401,182)
				純資産の部合計	22,431,356	16,646,314	5,785,042
				負債及び純資産の部合計	23,604,751	17,646,273	5,958,478

脚注:減価償却費の累計額 1,108,233円

支部通信

一関支部

一関市自主防災会ボランティア活動



一関市災害ボランティアセンター（VC）では、ボランティア希望者を募り、東日本大震災で被災した陸前高田市に派遣する「ボランティアバス」の運行をしています。このバス運行の募集を見た一関十

七区自主防災会からボランティア参加申込があり、五月二十四日、別便でボランティアバスを運行し、二十名の参加を得て陸前高田市米崎町の田んぼのがれき撤去と清掃を行いました。

最初の作業は、小さな田んぼの清掃で、「何も片付けるものないじゃない」と言つていましたが、皆で田んぼ

を行つたところ、大きなゴミの山ができました。

その中には、写真や優勝メダルなどの思い出の品も出てき、これらの品は持ち主を捜すため陸前高田市VCへ届けました。

その後、長野県庁ボランティアと県災害VCのボランティアと合流し、大きな田んぼのがれき撤去と清掃を続けました。

参加者は、陸前高田市の中心地が津波によって流れ、海岸線から約2km離れた同町の田んぼから海岸が見えることに驚きを見せ、津波災害の恐ろしさを感じながらも、「このボランティア活動で依頼者が復興の一歩を踏み出すきっかけになつてもらえればいいですね」と話していました。約五時間汗だくで活動し、その成果を確認するとともに、陸前高田市住民への思いを寄せていました。

参

された方がいなかつたことが幸いでした。

避難所となつた花泉総合福祉セ

ンターは、多い日で四〇名の方が

避難。避難せず自宅で生活された方も多く、連絡もとれず情報も入らない不安な日々の中、

陸前高田市竹駒町、広田町にある五ヶ所の避難所を訪問。陸前高田市

の担当者から、各避難所のニーズに

づいて聞き取り調査を実施。訪問入

浴車を使った入浴サービスの提供、

避難所の子供たちへポップコーンの

無料配布を行いました。

今回の支援活動や避難所のニーズ

調査の情報は、他県の社会福祉協議

会や各ボランティアセンターへ提

供。今後、計画されている各災害支

援事業やボランティア活動に役立

ていただいております。

「被災地の社協や役場は、まだ

まだ人手不足で被災者に十分な支援

が提供できていない状況であり、

継続的な支援が今後も必要」と

現状を報告しました。また、市社協

では陸前高田市社協からの要請を受

け、今回

震災による被災世帯へ

の生活福祉資金（緊急

小口資金）貸付職員を

派遣し、引き続き支援を行つております。

被災地のニーズに対応

大東支部

大東支部の職員は三月二十六日、東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市を訪問し、避難所のニーズ調査、訪問入浴車を使い入浴サー

ビスなどの支援を行いました。

職員が車三台に分けて乗り込み、

陸前高田市竹駒町、広田町にある

五ヶ所の避難所を訪問。陸前高田市

の担当者から、各避難所のニーズに

づいて聞き取り調査を実施。訪問入

浴車を使った入浴サービスの提供、

避難所の子供たちへポップコーンの

無料配布を行いました。

今回の支援活動や避難所のニーズ

調査の情報は、他県の社会福祉協議

会や各ボランティアセンターへ提

供。今後、計画されている各災害支

援事業やボランティア活動に役立

ていただいております。

「被災地の社協や役場は、まだ

まだ人手不足で被災者に十分な支援

が提供できていない状況であり、

継続的な支援が今後も必要」と

現状を報告しました。また、市社協

では陸前高田市社協からの要請を受

け、今回

震災による被災世帯へ

の生活福祉

資金（緊急

小口資金）貸付職員を

派遣し、引き続き支援を行つております。

「被災地を励ますためにもまず自

分たちが元気にならなければ！」花

泉地域から元気を発信しています。

千厩支部

勤労センター あ・れ・こ・れ

千厩支部が指定管理を行つてゐる
千厩農村勤労福祉センターでは、市
民の皆さしひぬまつ持枝を主に

民の皆さんのが趣味や特技を生かして生涯学習活動に取り組んでいます。大正琴、詩吟、謡曲、民謡、踊り、編み物、絵手紙、太極拳、コーラス、手話、またスポーツ少年団や未就園児と保護者の遊びのサークル等でも利用されています。当センターのオープン当時から約三十年間も利用している団体もあり、正に生涯学習と呼ぶに相応しい活動です。当センターは、ほぼ町の中心に位置しており当初から利用者も多く、過去においては同系列の施設の中で年間利用者数全国第二位になつたこともあります。

東山支部

安心感」を! （自主避難所の開設）

破損、壁のヒビ等の被害が発生し一部利用できない状態ですが、幸いにも研修室を利用中の皆さんに被害が及ばなかったことが何よりで「ありがとう！」勤労センター」という思いです。

利用できない部屋もありご不便をおかけしていますが、美しいハーモニーカーがピアノの音色にのつて再びセンター内に響き渡る日も近いことでしょう。

室根支部

被災者を支える住民交流の輪

を後にする人が無事帰れた」と胸をなでおろすと同時に、被災された方々のニーズ把握と迅速な対応が重要であることを再認識しました。



被災地支援のため、室根保健センターに
到着したボランティアの皆さん

川崎支部

できる事から始めよう！

今回、サポー卜協会では四月二十四日に気仙沼市栄町地区へ炊き出しの支援を行つてきました。

協会では震災後、被災地への支援について関係団体と連絡を取りながら、話し合いの場を持ち、「みんなで無理せずできることから始めよう」と支援方針を決めておりました。今回の炊き出し支援のきっかけは気仙沼市鹿折地区での一関消防団による夜間の警戒活動の際に地元消防団の方と出会ったこと。

栄町地区は自宅や知人宅に避難している人たちが多く、物資の支給などはほとんど来ていない状況や、食事はお金を出し合い避難先の各家庭のお母さんたちが毎日朝夕のご飯準備を行っているという現状を知り、少しでもお母さんたちの苦労を減ら

東京都等の災害ボランティアも、室根町を拠点に支援活動を展開されており、地域づくり活動の基本である「助け合い、支えあい」の精神が、被災で折れそうな被災者の心を支えております。

ります

また、室根地区は第十二区自治会の森と海の交流事業の唐桑地区をはじめ、多くの気仙沼沿岸地域に室根地域各自治会の災害支援活動が今も続いている。

地域活動団体紹介

大東ボランティア連絡協議会



したいとかから炊き出し支援を申し出たところ快諾していただきました。当日は天候にも恵まれ十名のスタッフが協力し、朝早くから調理作業を行いました。

メニューはカレーライス、ポテトサラダいずれも百食分。その他に協会員から手作り豆腐や漬物、アイスクリームの提供があり、嬉しいメニュー追加となりました。屋外にテーブルや椅子を並べて一日だけの『食堂』を消防団の詰所を借りて開設。コンロで温め直し、熱々のカレーを皆さんに提供しました。食事に来られないお年寄りの皆さんにはお盆にのせて配達サービスも行いました。食べててくれた皆さんには「久しぶりに笑った」、「今までどんな人が避難して来ているかわからなかつたが、今日は皆さんのが見ることが出来た」と好評でした。そのほか他団体との連携を図り支援物資の配達、片付け作業なども行っています。

今後ともできる事を出来る範囲で背伸びせず長期にわたり支援活動を続けていきたいと思います。



東ボランティア連絡協議会(大震災で日常生活が困難な状態にある要支援者への支援として、陸前高田市の福祉避難所「炭の家」にて調理ボランティアを行いました)。

四月六日から調理ボランティアを開始。避難している要支援者の昼食と夕食の調理を当番制で担当し、全国から届いた支援物資と現地の食材を使い調理を行いました。

また、調理者が毎日変わるために事の献立や申し送りを記録する連絡ノートを活用しながら情報と現地の食材を使い調理を行いました。

東ボランティア連絡協議会(大震災で日常生活が困難な状態にある要支援者への支援として、陸前高田市の福祉避難所「炭の家」にて調理ボランティアを行いました)。

今回の調理ボランティアには五月十日まで延べ百五十名ほどが参加し、避難生活を支えました。増沢会長は「支援は長期戦。近隣として今後もできる範囲で協力したい」と話していました。

千厩図書館放課後クラブ

岩手県からの お知らせ



「障がいのある人もない人も共に学び共に生きる岩手県づくり条例」が七月一日から施行されます。

この条例は、障がいについての理解を促進するとともに、障がいのある人に対する不利益な取扱いを解消し、障がいのある人と障がいのない人とが互いに権利を尊重し合いながら共に学び共に生きる地域づくりを推進することを目的として制定されたものです。

同日から、市町村社会福祉協議会に障がいのある人に対する不利益な取扱いの相談受窓口が開設されます。詳細は、岩手県公式ホームページ内の当課のページをご覧ください。

問い合わせ先

県保健福祉部障がい保健福祉課
電話：〇一九（六二九）五四四七

「クラブサポーターの会」の八人。全員教職経験者。共通項は同居する孫がいないこと、子どもがすきなことの二点。図書館利用者には少々迷惑をかけていることだと思いますが、子育てに優しい町づくりの実践とご理解をいただいております。サポーターは「子どもは地域の宝」と体と心で感じとつて、いきいきと子どもたちのお世話をしています。

地域での暮らしを考える

五回連続講座

〈共同企画〉

第五回講座は一月十九日に「生きるためのちえ」と題する願成寺住職芳川春彦氏の講演と、「千厩町まちづくり活動について」千厩町まちづくり団体連合会長永澤由利氏の実践事例発表で展開されました。



お釈迦様は死の一歩手前まで難行、苦行を積み重ね、遂にそれが無益であることを悟ります。快乐に溺れることなく、さりとて苦行を実践することでもなく、中道を歩むことを決意し、菩提樹の下で瞑想すること四十九日、明けの明星を見て縁起の法を悟ります。

「この極めて難しい内容を煩惱にとらわれている人々に理解させることができるだろうか」と説法するごとにためらいがあつたものの、梵天の勧めを受け入れ、かつての五人の修行仲間に説法することになります。これを初転法輪と言います。以降八十才で涅槃に入ります。十五年間、伝道の旅を続けることとなり

ます。そして、最後の教えは「自灯明、法燈明」でした。
お釈迦様の教えは大きく二つに分けられようと思います。一つは自分自身の生き方を説いたもので八正道と呼ばれるもの。正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定がそれで、もう一つは他者との関係の方を説くもので六波羅蜜と呼ばれる。布施、持戒、忍にく、精進、禪定、智慧がそれで特に前三種が大切とされました。

人生は「苦」である。四諦とは苦集、滅、道を言う。その苦を消滅させるために八正道を歩み、六波羅蜜を実践していくこと。一日三分でも五分でもいいから坐禅をし、自分の生き方を見つめ、お釈迦様の教えに適っているかどうかを確認する。その積み重ねが大事だと思う。

お釈迦様の教えをタテ糸（これを経と言う）とし、日々の生活をヨコ糸になぞらえ人生を織りなしていく。教えに適っている時間が仏の時間であり一生仏の真似をし続けることができればホンマモノであろう。私たちには生かされている有難さに気付かず、思うままにならない人生を思いどおりにしようとして苦しんでいる。その根本には自我執着心や欲がある。私は曹洞宗（禅宗）だから言うのだが、坐禅を実践し執着心から解放されるならば悩みはなくなってしまう。以降八十年間、伝道の旅を続けることができるようになると思つ。



千厩町は自治会活動が盛んです。三十一年の自治会があり、その活動の一端を紹介させていただきます。その前に、千厩地域では行政区イコール自治会という組織ではないことを申し上げておきたいと思います。その花壇は特に有名で大臣清田地区の花壇は特に有名で大臣賞を受賞したりもしています。

・医師不足



「きららアート展」に出展をし入選をしてきている菅原章さんですが、「家」は「第九回きららアート展」で初めての賞をいただいた作品です。「希望」は夏の太陽に向かって伸び、精一杯花を咲かせるひまわりの生命力をイメージしています。どちらの作品も、配色が鮮やかで色使いもオーリジナリティに溢れています。

千厩町は自治会活動が盛んです。三十一年の自治会があり、その活動の一端を紹介させていただきます。その前に、千厩地域では行政区イコール自治会という組織ではないことを申し上げておきたいと思います。その花壇は特に有名で大臣賞を受賞したりもしています。

・医師不足

今日の
ギャラリー



「希望」



「家」

お問い合わせは、レスパイトハウス・ハンズ（小野）まで
TEL 0191-31-5720
一関市青葉二丁目六一一六

まごころ寄附

平成23年3月から平成23年5月までに、市民の皆様からご寄附がありました。

一関支部

一関市南十軒街	小嶋 哲郎様	100,000円
一関市三関字神田	松倉 忠様	8,000円
一関市 中里ひとり美会	会員一同様	7,473円
一関市関が丘	菅原 瞳子様	30,000円

花泉支部

花泉町金沢字大畑	木村 久雄様	100,000円
花泉町老松字照盛	及川 功様	50,000円
花泉町金沢字柏木	阿部 文雄様	100,000円
花泉町油島字中川北	小野寺 諭様	100,000円
	匿名	1,000円

東山支部

東山町長坂字北山谷	鈴木 真様	100,000円
東山町長坂字里前	菅原 みち様	100,000円
東山町長坂字町	白藤 博様	50,000円
東山町長坂字町	阿部 昭弘様	100,000円
東山町長坂字町	鈴木 道雄様	50,000円
東山町長坂字小田	菅原 真様	100,000円
東山町長坂字平林	千葉 昭悦様	30,000円
東山町松川字一市町	千葉 正和様	100,000円
東山町長坂字東本町	片沼総一郎様	50,000円
東山町長坂字羽根堀	鈴木 孝志様	100,000円
東山町松川字寺崎	小野 栄喜様	50,000円
	匿名	100,000円

大東支部

大東町渋民 大東芸術文化協会渋民支部 支部長 菊池 勉様		20,000円
大東町渋民字大馬場	菊池 勉様	30,000円
大東町大原字角明沢	大原 一則様	100,000円
大東町中川字疊石	伊東 凡治様	50,000円
愛知県安城市	天野 仁子様	50,000円
大東町摺沢字樋ノ口	藤城 正雄様	20,000円
大東町大原字一六	高野ツエ子様	30,000円
大東町摺沢字堀河ノ沢	佐藤 薫様	50,000円
大東町猿沢字伊勢堂	及川 秀樹様	30,000円
大東町渋民字水無	金野 伸様	100,000円
大東町鳥海字細田	佐藤美和子様	50,000円
大東町摺沢字百目木	都澤 和子様	30,000円
	匿名	12,123円
	匿名	50,000円

千厩支部

千厩町奥玉字大野沢	菅原 金道様	100,000円
千厩町千厩字町	金野 茂人様	100,000円

室根支部

室根町矢越字柄杓田	千葉 東様	30,000円
室根町折壁字大里	岡 國子様	50,000円
室根町矢越字湯舟	岩渕 励子様	100,000円
室根町津谷川字本宿	佐藤 浩二様	50,000円
室根町折壁字梅木	菅原 武徳様	100,000円
室根町矢越字沢	小山 勝徳様	30,000円
室根町矢越字大畑	朴澤 公司様	30,000円
室根町折壁字三峯	小野寺 牧様	50,000円
室根町折壁字天神下	齊藤 健一様	30,000円
室根町折壁字大洞	小野寺正義様	30,000円
室根町折壁字樋口	小松 茂様	50,000円

川崎支部

川崎町薄衣字畠の沢	米倉喜勢治郎様	50,000円
川崎町門崎字布佐	千葉 好正様	30,000円
川崎町門崎字館畠	遠藤 勝様	30,000円
川崎町門崎字妻神	佐々木幸男様	50,000円
川崎町門崎字宮畠	山崎 清様	50,000円
川崎町薄衣字天蕨	小山 光一様	50,000円
川崎町薄衣字泉沢	菊地 七郎様	30,000円

お詫び

「社協だより18号」において、3ページ4段目の表の単位が抜けておりました。「(単位 千円)」となります。4ページ以降の単位も「千円」となります。

また、10ページ「・歳末配分結果」の「21年度配分合計(1)+(2)」は「22年度配分合計(1)+(2)」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。